

野村万作 狂言の会

六五〇年の歴史を誇る、日本古来の伝統芸能。

野村万作・萬齋が室町時代から続く最古の喜劇

「狂言」の世界へ誘います。



出演 野村万作 野村萬齋 石田幸雄 他

演目 狂言「入間川」

狂言「柑子」

狂言「鎌腹」

2019. 10/16(水)

開場 18:30 開演 19:00

黒部市国際文化センター

カラーレ 〈カーターホール〉

全席指定

一般5,000円

高校生以下1,000円(カラーレでのみ発売)

障がい者手帳をお持ちの方4,000円(カラーレでのみ発売)

- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
- 未就学児の入場はご遠慮願います。公演中、未就学児を対象とした「一時保育(無料)」を実施しています。公演10日前までにお申し込みください。

■プレイガイド：カラーレ・黒部メルシー・魚津サンプラザ・入善コスモホール
チケットびあ(セブンイレブン等) Pコード 495-934
アーツナビ(新川文化ホール・富山県民会館・富山県教育文化会館・富山高岡文化ホール)

主催/公益財団法人黒部市国際文化センター 共催/チューリップテレビ
後援/黒部市 黒部市教育委員会 北日本新聞社

●お問い合わせ●

カラーレ 〒938-0031 黒部市三日市20番地

TEL.0765-57-1201 FAX.0765-57-1207

info@colare.jp http://www.colare.jp/

開館時間:9:00~22:30(土曜~23:00) / 毎週水曜日休館

チケット一般発売日 7月21日(日)9:00~



日本最古の喜劇「狂言」をご堪能ください。

野村万作 狂言の会

六五〇年の歴史を誇る、日本古来の
伝統芸能。

野村万作・萬斎が室町時代から続く
最古の喜劇「狂言」の世界へ誘います。



野村万作
の
むらまんと
まんと
狂言師

一九三一年生。重要無形文化財各個指定保持者（人間国宝）。文化功労者。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章など、多くの受賞歴を持つ。国内外で狂言普及に貢献し、ハワイ大、ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組み、代表作に「月に憑かれたピエロ」「子午線の祀り」「秋江」「法螺待」などがある。
近年では、「植山節考」の再演に取り組み、大きな成果をあげている。



野村萬斎
の
むらまんと
まんと
狂言師

一九六六年生。野村万作の長男。祖父・故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ごさる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、紀伊國屋演劇賞、朝日舞台芸術賞等を、「子午線の祀り」の再演で二〇一七年度毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会開会式・閉会式のチーフ・エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクター。



石田幸雄
の
いしだ
ゆきお
狂言師

一九四九年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。大曲の「三番叟」「釣狐」「花子」をすでに初演。国内外で狂言・能公演に多数参加し普及に貢献している。主宰していた「雙ノ会」で芸術祭大賞、個人で観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。大胆かつ緻密な演技で、古典はもとより「国盗人」など新しい試みの舞台でも存在感を見せる。普及公演での的確な解説にも定評がある。学習院大学非常勤講師。

狂言 番組

解説

狂言

入間川

いるまがわ

長らく都に来ていた遠国の大名が、太郎冠者を連れて本国へ帰る途中、入間川に行き当たる。そこで出会った入間に住む男が「そこは深い！」と止めるのも聞かず、川を歩いて渡ろうとした大名は、深みにはまってずぶぬれになってしまふ。昔から入間では「入間様（いるまよう）」と言って逆さ言葉を使うはずだと怒った大名は、男を成敗しようとするが……。
逆さ言葉によるセリフのやりとりが面白い作品です。入間川は現在も埼玉県南西部を流れる川。狂言には珍しく、関東を舞台にしています。

大名 石田幸雄

太郎冠者 月崎晴夫
入間の何某 野村太一郎

後見 飯田 豪

狂言

柑子

こうじ

太郎冠者は、昨晚主人から預けられた、土産物の珍しい三つ成りの柑子（みかんの一種）を持ってくるよう催促されるが、実はすでに三つとも食べちゃってしまっていた。一つ一つ言い訳をするうちだんだん調子に乗ってきた太郎冠者は、ついには鬼界ヶ島に取り残された俊寛の話まで引き合いに出し……。

小品ながら、柑子を食べるリアルな表現、平家物語をひいた語りなど見どころの多い佳作です。太郎冠者の凝った言い訳をお楽しみください。

太郎冠者 野村萬斎

主 石田淡朗

後見 中村修一

狂言

鎌腹

かまばら

怠け者で仕事に行かない太郎。怒った妻は鎌を縛り付けた棒を振りかざし追い回す。仲裁人が止めに入るが、太郎はこんなに侮辱されるくらいならと、妻の目の前で腹を切ろうとする。ところが妻は、やれるものならやってみると捨てゼリフを残し立ち去ってしまう。一人残された太郎は……。
後に引けなくなった男の運命は？ 虚栄心と生への執着心が交差する、シテの演技が見どころです。

太郎 野村万作

妻 中村修一
仲裁人 岡 聡史

後見 石田淡朗